

を反對にして書いてある。江戸通、東京通の人が見たなら、さぞ私を山の手蟲負の田舎者と思ふだらうと、考へると耻かしくも可笑しくもなつた。

ある婦人雑誌の記者にも談話したが、同じく今月の雑誌に載つた、見て行くと私の話した事には相違ないが、實に名文と云ふのか艶文といふのか、恐ろしい美文で巧みに書いてある、私は何はなし、まるで他人の文章を讀んでゐるやうに思へた。(九月三十日)

夏の旅の疲勞、感冒のコデレ、そんな事で今だに元氣がない、研究所の見廻りも休み勝である、なさればならぬ仕事もあるがこの頃の多くは半日を幕中に過してゐる。例の暢氣から、仕事は仕事として捨てゝは置いてあるが、會友からの作品の批評は聊か氣になる、それに本月中旬の深山の秋を寫生すべゝ往く處も極まつゝあるのに、どうやら往けさうにもないのが残念にも思はれる、併し別にこゝといふて身に痛みもなく、氣分にも變りはなし、横になつて好きな書物や雑誌に親しむでゐらるゝのは滿更悪いこともない、そして、このやうにしてもその日を送り得る浪人生活を難有も思ふのである。(十月二日)

青梅の鵜澤四丁氏から、青梅鐵道會社發行の風景繪華書十七葉を贈られた。圖は多摩川・流日原の鐘乳洞、日原川・氷川溪流、奇橋、瀑布等である。私は曾て氷川迄往つて、其幽透な秋の美觀を味つたことはあるが、日原はまだ知らぬ、聞く處によると氷川に比して猶一層閑寂な趣に富むでゐると云ふ。此地の紅葉

の盛りは天長節前後であらう、青梅鐵道の終點日向和田より七八里、丁度一晚泊りによい處である、その頃研究所の秋季寫生を此地方に試みて見たいとも思ふ。(十月三日)

附記、此日記抄は先生が幕中に在りてものせられし最も新らしき遺稿に屬す。本文は十一月號みづゑ原稿とすべく筆執られしものなれども混雜の爲め一時所在不明なりし處、其後遺稿整理中、端なくも此の新らしき本稿を發見せしかば茲に掲ぐるものなり。

現今英國ローヤルアカデミーの面々

山樹生

年老ひたる幾多の畫家が不斷の勢力を以て藝術を己が命として働らき死に頻する齡に至るも尙飽き足らず、白髪を頂きても己が美の理想を何處までも實現せんとする彼等の勇氣は繪の味の未だ解せられない余が感に打たれて讀んだことです。

粗末な抄譯なれど一團六十有余の畫家が現今何をしつゝあるかを一日伺ふことが出來るといひましたからこゝに不遠慮にかき出しました。

Abb. Y. Edwin Austin 生れは米國ヒラデルヒヤ、當年六十一歳既に新聞雑誌の挿入畫家として有名であつたが、二十年ほど前に『五月の朝』と云ふ繪を茲に出品して會員にあげられた、其後氏の名畫はエドワード七世の戴冠式やリチャード三世や

である、又ペンシルバニア州の議事堂の壁畫やボストン圖書館の壁畫も氏がかいたものである。昨夏長逝セラルト傳へ聞く。

Alma-Tudema, Sir Laurence 當年七十七歳、ニージーランドに生れた、四十年來ロンドンに住まつて居る、彼の繪多くはグリーンキや古羅馬の作品で、有名なのは『愛すべきならわし』と云ふので此繪は今テート美術院にある、英國美術家の成功者の一人である、五年程前に功績狀を受けた。

Baco, John. F. 當年四十八歳、九年程前に『軍隊の酒宴』と云ふ繪をかつて名聲を博して翌年この會員にあげられた、今尙氏は青年畫家連中の錚々たるものである、氏は又近代的の人物畫に秀で、居る。

Bramly, Frank 當年五十六歳、氏の作品で有名なのは三年前の作の『絶望の淵へ』と云ふのである、近頃は肖像畫を繪いて居る。十七年前にこの會員にあげられた。

Brundwyn, Frank. 一寸年齢不明、何んでも七年以前にこの會員にあげられた、氏は畫家として又ブリティッシュスクールの創立者として有名な人である。氏は建築家の息子で小さいときから圖按家として有名であつた而して氏はウィリアム、モーリ氏の助手として數年間働らいて居た、その間、みづゑ油系、エッチング、鉛筆畫、圖按をかいた、氏の名聲は故郷よりも外國によく轟きて居つた。即ち英國美術の指導者として外國に有名である。

Brock, Thomas 當年六十六、彫刻家である氏は多忙な境遇にありながら澤山製作物を出して居る、其間に著しき進歩を示して居る、作品はヴィクトリヤ女王陛下である『危機 髪』と云ふのはチャンタリー、フアンドに買はられ他の作品はテート美術館にある、二十年以前この會員にせられた。

Brown, J. A. Arnesley 當年四十七歳、風景畫家で氏の腕の大部分はハーコマール學校で養はれた八年以前にこの會員とせられた、名作は『朝』又は『銀の如き朝』と云ふのが有名である、氏の繪は何となく人をして信服せしむる様子があつて頗る高尚な繪を仕上る性だ。

Cameron, D. Y. 當年四十八歳、氏はみづゑもエッチングもどちらも味い、つい昨年の正月會員とせられた、今はローヤル、スコティッシュ會、ローヤル、ウォーター、カラーの會員である。

Chusen, George 五十一歳、氏の若い時分にはアカデミック流の畫風から新らしき流派を出さんとまでに望を囑されて居た人だ、然し今に於ても主張技術の進歩の爲めには鋭い同情家である主に農夫の生涯をかい、居る、『門のそば』とか『落穂拾ひのかへり』と云ふのは名作だ、氏はローヤルウォーターカラーソサイティーの會員でもある。

Colton, William bet 當年四十六歳、彫刻家、有作『腰帶』『青春期』など、今はこの彫刻の教授の一人である。

Cope, Arthur Stoddale 有名な歴史畫家シー、ダケルユー、コー

プ氏の息子、當年四十六歳、人物畫家、エドワード七世、獨逸皇帝、ロバート王、キツチナー王其他色々の高貴人物畫がある、氏は昨年こゝの正會員とせられた。

Cowper, Frank Cadogan 氏は當年未だ三十六歳、セント、ジョンの木彫會及ローヤル、アカデミー、スクールに學びし後アベー氏の畫室で六ヶ月働らき、其後六年かゝつて獄屋に於けるセント、アグネスガ天から白い輝く衣を頂戴する所の繪をかいた、此繪が彼の大なる成功をなさしめて、其年にこゝの會員にあげられた。尙ローヤル、ウォーターカラーの會員でもある。

Dadis, Henry W Banks 當年八十歳の老人、ローヤルアカデミースクールで學んだ其間に二回も賞牌を受けた、風景畫家て名作は『羊の歸り』『夜の幕』である。

Dicksee, Frank 氏の御父さんは有名な畫家でティエーフ、デックシーといふ人、當年三十六歳、幼少の時分から特別に畫の能力があつた、二十四歳になるやならず『調和』……と云ふ繪をかいて正會員にあげられた、他に『二つの王冠』といふ繪がある、皆想像的な構圖である。

Drury, Edward A Briscoe 當年五十六歳、氏の美術教育はオツクルホルドの美術學校に始まり、引き續いて、サウス、ケンシントン學校でやり、パリのダローの元で完成した、而して繪畫彫刻の近代的復活を呼んだ人だ。

East, Sir Alfred 當年六十四歳、氏の教育はクラスゴの美術

學校及パリである、外國の批評家は氏を眞の英國美術の代表家の人だと評して居る位だ、尙氏は英國美術家協會の總裁であるしエッチング協會の會員でもある。

Farguharson, Joseph 風景畫家、當年六十六歳、氏の最も名作は『うれしくない冬の日』と云ふのである、一體氏は雪については特に面白い題目を捕へる人だ。

Fildes, Sir Luke 當年六十九歳、氏はサウス、ケンシントンの學校で美術を研究し次いでローヤル、アカデミーで勉強した三十七歳のときに處女作を出品したそれは『不慮の見張番』と云ふのである、近頃の作品は『醫者』『エドワード七世』等かいた、十四年程前にこゝの正會員とせられた。

Fisher, Mark 米國ボストン生れだが、兩親は英國 始めローウェル研究所で勉強したが二十歳のとき佛國パリに行き暫らくの間、グレイヤーの畫室で研究した、後程間もなく英國に移轉した、風景を常にかいて居る人だ、當年幾歳かわからぬ。Forbes, Sir Hope Alexander 五十六歳、氏はランベスの美術學校から腕を練り始めてローヤル、アカデミー、學校を修業し、パリのポーナー氏の畫室で研究し、英國にかへリユルンオーに住居した氏のはかのニューリン學校の實に秀才であつた、彼の繪は氏の住宅の近傍のものばかりだ、名作はテート美術館にある『花嫁』と云ふのである。

Frampton, Sir George James 今日の彫刻家として最も有名な一人である、當年四十二歳、最初フライス氏の元で學び後ロー



K. Miyake, 1911.
Cave.

ブ氏の息子、當年四十六歳、人物畫家、エドワード七世、獨逸皇帝、ロバート王、キツチナー王其他色々の高貴人物畫がある。氏は昨年こゝの正會員とせられた。

Cowper, Frank Catogon 氏は當年未だ三十六歳、セント、ジョンの木彫會及ローヤル、アカデミー、スクールに學びし後アベー氏の畫室で六ヶ月働らき、其後六年かゝつて獄屋に於けるセント、アグネスガ天から白い輝く衣を頂戴する所の繪をかいた、此繪が彼の大きな成功をなさしめて、其年にこゝの會員にあげられた。尙ローヤル、ウォーターカラーの會員でもある。

Davis, Henry W Banks 當年八十歳の老人、ローヤルアカデミースクールで學んだ其間に二回も賞牌を受けた、風景畫家て名作は『羊の歸り』『夜の幕』である。

Dicksee, Frank 氏の御父さんは有名な畫家でテイーエフ、デックシムといふ人、當年三十六歳、幼少の時分から特別に畫の能力があつた、二十四歳になるやならず『調和』……と云ふ繪をかいて正會員にあげられた、他に『二つの王冠』といふ繪がある、皆想像的な構圖である。

Drury, Edward A Briscoe 當年五十六歳、氏の美術教育はオツクルホールドの美術學校に始まり、引き続き、サウス、ケンシingtonの學校でやり、パリのダローの元で完成した、而して繪畫彫刻の近代的復活を呼んだ人だ。

East, Sir Alfred 當年六十四歳、氏の教育はグラスゴウの美術

學校及パリである、外國の批評家は氏を眞の英國美術の代表家の人だと評して居る位だ、尙氏は英國美術家協會の總裁であるしエッチング協會の會員でもある。

Fairhurst, Joseph 風景畫家、當年六十六歳、氏の最も名作は『うれしくない冬の日』と云ふのである、一體氏は雪については特に面白い題目を捕へる人だ。

Fildes, Sir Luke 當年六十九歳、氏はサウス、ケンシingtonの學校で美術を研究し次いでローヤル、アカデミーで勉強した三十七歳のときに處女作を出品したそれは『不慮の見張番』と云ふのである、近頃の作品は『醫者』『エドワード七世』等かいた、十四年程前にこゝの正會員とせられた。

Fisher, Mark 米國ボストン生れたが、兩親は英國 始めローウエル研究所で勉強したが二十歳のとき佛國パリに行き暫らくの間、グレイヤーの畫室で研究した、後程間もなく英國に移轉した、風景を常にかいて居る人だ、當年幾歳かわからぬ。

Forbes, Stanhope Alexander 五十六歳、氏はランベスの美術學校から腕を練り始めてローヤル、アカデミー、學校を修業し、パリのポーナー氏の畫室で研究し、英國にかへリユルンオーに住居した氏はかのニューリン學校の實に秀才であつた、彼の繪は氏の住宅の近傍のものばかりだ、名作はテート美術館にある『花嫁』と云ふのである。

Frampton, Sir George James 今日彫刻家として最も有名な一人である、當年四十二歳、最初アライス氏の元で學び後ロー



ヤルアカデミーに入學して金牌を得た、氏は尙英國美術家協會の名譽委員である。

Gow, Andrew Carrick 當年六十五歳、歴史畫家、名作は『丘の上のクローンウエル』と云ふのである。

Graham, Peter 當年七十六歳、氏は蘇國風な沼地の風景や黒い波が岩にぶつかる繪をかいいたが其内に莊嚴なローマンチイズムな所を見受ける繪である。

Aacker, Artur 彫刻家エドワード、ハーカーの子息バリのボナの弟子、氏の名作は天使がマリアにクリスト誕生を通告する繪である。

Hemy, Charles Napier 六十二歳、レイス男爵の弟子、先生の感化が及んで海とか荷物の出入の水夫や漁夫が上手である就中『にしん』及『ロンドン川』の二つは名作である。

Horkner, Sir Hubert Von 當年六十四歳、みづゑも油繪も白と黒てかく繪もエツチングもメヅチントの彫刻家としても亦石版畫も金屬彫刻も皆味かつた繪畫に於ての名作は『鑄治家』及び禮拜堂などである。

Ihn, Wilhelm Go-combe 四十二歳、彫刻家、英國で勉強した後ヨーロッパ及び亞フリカに行きパリにとまり、ロンドに歸り名をなした、『遊ぶ子供』と云ふのは名作である。

La Thaque, Henry Herbert 年齢不明、パリに遊んだ名作は『大鎌をもちたる男』と云ふのである。

Larery, John 五十五歳、アイルランドの人、グラスゴー、パリ

ロンドンで勉強した、重に自我像をかいいた人である、數ヶ月以前にこの正會員とせられた。

Leader, Bvilliam 七十一歳、氏は自然の代表者と云つてよい位如何なる景色でもかいて居る。

Losie, G Dunlop チャールス、レスリーの子に當る當七十八歳、若いときは家庭内の題目を撰んだが今は昔風のこまかい景色畫をかいて居る、其等の一として有名なる『荒れたる水車小屋』と云ふのがある。

Lucas, John Seymour 六十四歳、歴史畫をかき浮世繪風のもののかき肖像をかく、氏の名作の一としてはローヤル、エキスタンジの壁畫であるそれは征服者ウィリアムがロンドン市に憲法を發布する所である其他『謀叛人追捕』等である。

Mac kennal, Bertram メルボルン生れ今年五十歳、彫刻家、もとパリで勉強した、傑作は『エドワード七世』に『地球』などである。

Murray, David 當年六十四歳、畫家となる前十一年間と云ふものは或る商買をして居た、氏の傑作は『私の戀人が船去る』とか『城砦』の景色等である。

North, J William 氏は水繪にも油繪にも秀でて居る、實に氏は自然を詩的に眺めるの特質を供へて居る人、で有名な作品は『冬の日』と云ふなどである、英國水繪畫會の會員でもある。

Orben, William 當年三十六歳、ダブリン及スレードの學校にて修業し青年畫家としての屈指の一人である、未來に大に望

を囁かれて居る。

Onless, W. William ザーサー生れて四十年前にロンドンに來た當年六十五歳、肖像畫家である。

Parsons, Alred 當年六十六歳、二年間程郵便局の貯金部の役人であつたがハーバーの雜誌の挿入畫家として有名であつた、其後風景を畫き水繪及油繪の大作をなして居る。

Pegrum, H. Alred 五十一歳、彫刻家で、傑作は『女うらない』『イグニス、フアチュアス』等である。

Pomeroy, F. William 氏はローヤル、アカデミーで金牌を得たことがある、彫刻家である、英國議事堂の爲めにグラットストンの像を作つたことがある『恐ろしき女豫言者』と云ふは氏の傑作である。

Poynter, Sir Edward John, Bart 建築家の子であつた當年七十七歳、大作としては『エジプト』の『イスラエル人』とか『エスカラピヤスを訪ふ』とか『ソロモンとセバ女王との會合』などある。

Richmond, Sir. W. Blake, K. C. B. ジョージリチモンドの子當年七十、肖像を巧みにかき又セントポール寺のモサイクの裝飾に氏の作として有名なものである。

Riviere, Brton 當年六十二歳、動物畫が氏の専門とても云ふべきだ。

Sant, James. 當年九十三の高齡、氏は尙相變らずブリングトンハウスの出品者で肖像を主として畫いて居らる、ヴァイクト

リヤ女王から一般畫家の長だと仰せられて居る。

Sargent, J. Singer 氏はフロレンスに生れ米國系を引いて居る當年五十七歳、氏の出品はサロンが始めてゐる、氏の名作には百合、バラの立派な作がある、尙英國水彩畫會の會員である。

Shannon, Charles H. 氏は裝飾的な繪を畫く人である、線の美表情の高尙、色の豊富なことは氏の特長である。

Shannon, J. J. Busu 米國生れて當年五十一、肖像畫家である中にも『娘の花』と云ふのは氏の名作である。

Short, Frank 五十六歳、始めは機械師であつたが畫家となつた、水繪畫家としてもえらひ。

Sims, Charles 四十歳、パリにも行きて勉強した、今年一年に氏の腕の上達が見受られる『泉』と云ふのは氏の傑作、英國水彩畫會員でもある。

Smy the Lionel Percy 六十二歳、みづゑも油も出来る主に田舎の景色を畫いて居る、水繪の『若芽』と云ふのは氏の傑作である。

Solomon, Joseph 五十三歳、パリにも長らく居た、近頃は肖像をかくて居たが、此頃は再び又々想像的な繪をかくて居る。

Stokes, Adrian 五十九歳、風景畫家である。畫風は半裝飾畫風である、『高地と空』及『秋の山』は氏の傑作である。

Stone, Marcus フランクストーンの子、當年七十三歳、五十年來

氏はアカデミーに出品して居らるゝ、若いときには本の中に歴史畫を好んでかいて居た、今年は『六月』と云ふ題で少女の畫を出品して居る。

Storey, G Adolphus 七十九歳、人物をかく但し想像的浮世繪風の構圖が誠に正確である、嘗てはローヤル、アカデミーの透視畫の教師でもあつた。

Stott, Edward 當十五四歳、パリに行きカロラスデラン及カバネルの元で勉強した今も其感化の跡が見える、主に田園生活を題目に取つて居る。

Strang, William 五十四歳、エツチングも味い、畫としては裝飾的なものが主である。

Thornycroft, W.Hamо 御父さんも御母さんも彫刻家であつた、今年六十三歳、ローヤルアカデミースクール時代に金牌をもらつた、氏の傑作はロンドロの岸に立てるグラドストンの紀念像及トラフルガー四ツ辻にあるゴルドン紀念像並にウエテトミンスターにあるクロンウエル像などである。

Tuke, H Scott 五十五歳、イタリーに一年、パリに二年行き勉強した、氏の作品には漁夫や水夫の遊んで居る所が畫の題目となつて居る、其他『ポンプを使つて居る人々』『八月の縁』などは名作である。

Waterhouse, I William 想像畫をかく人である、當年六十四歳即ち氏の作品は大多數神話の如きものである『魔術の環』と云ふのは非常によい。

Waterlow, Sir F Albert 氏は英國水彩畫協會の總裁である、當年六十二歳、風景畫に於て氏の代表的作品は『ガルラエーのむだばなし』後程純粹なる風景畫をかいて居る。

Wood, F Derwent イングランド生れ當年四十一歳、然し御父さんはアメリカ人、彫刻家である。

Wool Henry 當年六十七歳、二ツの美術學校を修業した後、グラフィックといふ雜誌に繪をかいて居たが其後ヴェニスに住んで居た。氏はこゝで澤山畫をかいたものだ。

Wyllie, W Lionel 當年六十二歳、氏は特に海を題目に撰んでかき船乗の所などは實に面白くかいてある、尙エツチングも味くかいて居る。

Yeames, W Frederick 七十八歳、四十年以來ローヤルアカデミーニ出品を續けて居る、歴史畫人物畫、景色畫を水繪及油繪でかいて居る、而して氏はグリーンニツチの畫會の監督をもして居る。(終り)

非人情の記

幸 雄

一

世の中は刺戟が多すぎる、悲しい事、嬉しい事、憎らしい事口惜しい事と後から後から絶えず心を動す事共が連つて出て來るので、僕の心は靜かな折とてはない、苦い涙紅い涙、涙は常に涸く間は無いのである、世の識者らしい人に之を問へば、『人